



2019・9・11

第 350 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 3000 万署名で安倍の改憲策動にトドメを

### 暑さにも負けず安倍辞めるまで

【長野県上田市／真田9条の会】 3日、真田9条の会が今月も「アベ政治を許さない」宣伝を実施しました。上田市街地から菅平高原へ向かう道路沿いでメッセージボードを手に12人がスタンディングアピール。車が交差点を曲がる際、助手席窓を全開にして「応援しています、頑張ってください」と女性が大きな声援を送りました。今までの車から手を振る等の反応ではなく、「こんなの、初めて」と参加者はびっくり。

「あんまり暑くて休もうとおもったけど、私みたいな年寄り、木陰に椅子を準備してもらったので」と高齢の女性。別の女性は「憲法を守るなんて、当たり前のことでしょ」と、安倍改憲への怒りを語りました。中沢盛雄さんは「この場所に立っていると『先日立っていましたね』と話題になる。アピールは伝わっている」と語ります。参加者は、安倍改憲を断念させるまで「こっちが行動をやめるわけにはいかない」と、それぞれの思いを語りました。

毎月のニュースには、前月のスタンディング写真を載せて発行。先月で52号とな

### 九条の会の草の根運動に挑戦

【日本会議議員懇談会】 2020年の改憲実現を公言する安倍首相のもと、日本会議国会議員懇談会は6月20日の総会で次のような「令和元年運動方針」を決めました。

1 「衆参の憲法審査会の審議を促進し、改正原案作成に向けて超党派で合意できる環境づくりをすすめ、早期の国会発議をめざす」

2 「国民投票に向けて、憲法改正について幅広い国民的理解を促進するため、衆参選挙区・市町村『議員』と『民間』が連携したネットワーク（国民投票連絡会議）づくりを促進し、研修会や講演会を積極的に開催し、国民投票における過半数の賛成投票をめざす」

九条の会がめざす「草の根」の世論づくりに正面から挑戦しようというものであります。

### 署名の地区目標達成へ宣伝カー

【群馬県前橋市／南橋地区九条の会】  
安倍改憲NO！南橋地区市民アクションの

実行委員会が8月17日開かれ、7月29日の「九条の会」声明を受け、参院選で改憲勢力3分の2を阻んだ市民の運動に確信をもち今まで共に行動してきた各団体との連携をさらに強化にしていこうと決意をしました。

全国で3000万の目標に対して、南橘地区では、人口比で1万筆が目標になります。南橘地区九条の会として署名トータル数は2764筆です。今までと同じやり方では目標達成は難しいと考え、戸別訪問と同時に宣伝カーを出すことにしました。

当面、9月7日に北代田地区から始めます。「南橘地区九条の会ニュース」NO124)

## 3000万人署名他団体にも訴えて

### 【前橋市桂萱地区／かがや9条の会】

前橋本の中学校区に2006年に発足した、かがや9条の会設立「13周年記念のつどい」は、9/8(日)地元の桂萱公民館ホールで行われました。司会の開会挨拶ののち、飯田至弘事務局長が「この1年のあゆみ」を報告しました。最初に財政関係の協力を訴えたのち、2008年5月から桂萱地域全戸を対象に独自の「9条署名」について触れました。2017年11月から3000万人署名に切り替え、昨年11月に全戸訪問が完了したこと、署名は10年6ヶ月かかり120回で参加者は延べ606名で、1回の行動参加は平均5名になると報告。桂萱地区は1万2932世帯、人口2万8754人で、選挙となると特定候補を「地域推薦」して住民に支持を強制する「保守的」な地域ですが、さまざまな出会いがありました。

昨年末から署名の到達点を精査し、9条署名と3000万人署名(桂萱人口1/4は7200

人)の到達点は目標の半分にも満たないの  
で引き続き署名を推進することとしました。

今度は九条の会だけでなく、地域にある諸団体にも呼びかけ、「かがや市民の会」を立ち上げたこと、3月から署名を再開し8月までに120筆を集めたと報告しました。3000万人署名は「安倍首相が9条改憲を諦める」まで継続すると改めて署名行動参加を呼びかけました。

当日のプログラムには署名行動の到達点と「九条の会」7/29声明を添付し参加者に全文を読んでほしいと訴えました。

(かがや9条の会 飯田至弘)

## 街頭での訴えに今日の情勢反映

### 【札幌市西区／戦争させない札幌西区の会】

戦争させない札幌西区の会が3000万人署名を地下鉄琴似駅前9条の会や新婦人の会の会員が横断幕や大型プラスター「憲法無視の安倍政治NO」を掲げ、ビラを配布しました。

「B29爆撃機が飛んできて恐ろしかった記憶があります。なんだか「また来た道」のようで嫌な世の中になってきましたね」と83歳の夫婦が心配そうに署名しました。

『表現の不自由・その後』の中止や、道警に排除され、モノを言う権利制限は昔のようで怖い」と切々と話す70代の女性。76歳の女性も「自衛隊員は海外で戦争するために入隊した人はいないと思う。米軍と一緒にたたかい、亡くなったら家族が悲しむだけ」と、わがことのように怒りました。

## 「徴用工問題の真実」学ぶ

### 【東京都日野市／日野市民九条の会】

日野市民九条の会」は1日、「徴用工問題の真実」と題した緊急学習会を行いました。

自治体問題研究者の池上洋通さんが講演し、韓国大法院の「徴用工」をめぐる判決や、日本の植民地支配の歴史、徴用工の実態、日韓条約と日韓請求権協定について語りました。東アジアの平和を脅かす日本政府の対応に対し両国市民が連帯して平和的な解決の道を開こうと呼びかけました。

参加者からは「当事者や被害者抜きに、時の政権同士の約束のみが強調され、人権が無視されていることがよく分かった」「住民レベルで日韓交流ができたらと期待している」などの感想が寄せられました。

## 映像と笑いで改憲の危険告発

【大阪府／九条の会・おおさか】 九条の会・おおさかは1日、大阪市内で集いを開きました。フリージャーナリストの西谷文和氏が「映像で見る戦争と平和」と題して講演し、映像を使いながら南スーダンの現場、イランとの核合意を一方向的に破棄するトランプ米大統領の手品のタネ明かし、戦争はウソから始まること、メディアの問題点などを告発し、「忘れない、あきらめない、ダマされない」ことの重要性を力説。参院選を振り返りながら投票率を上げれば政治を変えることが可能と訴えました。

コメディアン松元ヒロ氏が「笑って平和を考えよう」と題してコントを演じました。松元氏は、会場を爆笑の渦に包みながら安倍政権を痛烈に風刺。「元号が変わっても政治は変わらない」と指摘。現実を憲法の理想に近づけるのではなく、憲法を「現実」にあわせることを改憲の口実にしよう

とする安倍政権を告発しました。

## たて看板で24時間宣伝

【青森県／青森市9条の会連絡センター】 戦争法廃止を多くの市民に訴える”看板を立てよう”、「青森市9条の会連絡センター」（市内七つの九条の会で構成）は8月24日、市内3ヶ所目の看板を設置しました。

「看板は一日中、街頭で宣伝しているのと同じ。ぜひ協力を」。今回は、幸畑団地西口バス停近くに、承諾を得て設置しました。

横1メートル82センチ、縦45センチの看板。交通量が多く、バスを利用する市民やドライバーの目に飛び込んでくる位置に立てました。

看板を見ようと8月28日、茶屋町9条の会、けやき・はまなす9条の会、地域住民らが小雨について、足を運びました。

同連絡センター代表の門倉昇さんは「戦争法廃止を求めて、市民と野党の共闘が始まり、今も野党間での共通政策になっている。安倍9条改憲阻止3000万人署名とともに戦争法廃止へむけ、これからも頑張りたい」と力を込めました。

## 沖縄はアジアの平和交流の要石

【北海道帯広市／十勝・帯広九条の会連絡会】 十勝・帯広「九条の会」連絡会は25日、講演会を帯広市で開き120人が会場を埋めました。

「日本国憲法と沖縄・北東アジアの平和」と題し、北海道教育大学の明神勲名誉教授が講演し、9条と前文の平和主義を生かしていく重要性を指摘。戦後74年、米軍事戦略の「太平洋の要石」の役割を押しつけられてきた沖縄がアジアの「平和な文化的経

済的交流の要石」となり、沖縄のみならず日本、北東アジアの将来に深く関わっていると強調しました。

参加者からは「憲法が施行された年に誕生した。憲法に守られて生きてきています。子どもや孫に伝え、戦争のない国を引き継いでいく」「9条を中心に北東アジアの平和構築の取り組みが展望できた」「9条の成立や沖縄の歴史を初めて聞き、連合政府の実現と『北東アジアの共同体』に進んでいくよう望みます」と感想が相次ぎました。

## 参加者が一点持ち寄りで学習

### 【横浜市青葉区／青葉台地域九条の会】

<定例駅宣>8月9日の駅宣はやはり暑さのせいもあったか、参加者は6名と少なかった。「被爆者国際署名」も併せて行ったが、やはり認知度が低い感じはぬぐえなかった。3000万署名は月末で3,205筆となりました。

<月例会>8月29日久しぶりに20名の参加者を得て、にぎやかな月例会を開催した。吉川さんや多くの人知らない中島(日夏)さん等もそれぞれ特徴的な発言をされ、参考になる情報が溢れました。これからも涼しい秋に向かいますので、従来参加しなかった人にもぜひお越しいただきたいと思えます。これらの話は9条の会の幅の広さを感じさせ、要するにそれは人々の多様な広がりを見せていました。一点持ち寄り学習では賀川さんが東京新聞から、芝崎さんが多くの新聞から問題を提起してくれました。今回もまた石畑さんが7紙にわたる8月の記事、論調などを丁寧に説明し自身の問題提起も盛りだくさんでした。

(「青葉台地域九条の会ニュース」NO144)

## 郷土の歴史から戦争の実態学ぶ

【和歌山県／憲法9条を守る和歌山市南の会】8月24日、「戦争はイヤ！平和と文化を語るつどい」が「憲法9条を守る和歌山市南の会」の主催で開かれました。

開会挨拶で世話人の西畑昌治さんは、「最近の日韓関係を「両国に反韓反日を煽る風潮がある。戦争に先立っては排外主義が煽られる。しっかり歴史の教訓を学びたい」と述べられました。

次いで講演に入り、まず藤本清二郎さん(元和歌山大学副学長)は、「雑賀・和歌浦地区の地理環境と歴史(江代以前)」と題して、古代から時代ごとの地図を示して、「和歌浦に注ぐ和歌川が古代の紀の川流路だった」「紀の川上流の大和から、大陸方面に開かれた港として、和歌浦や西浜があった」「水軒川に沿っても『畑地・水田』があり、和歌川沿いにも、西浜と同じく『塩浜(塩田)』があったのが特徴などと話されました。

次に森崎順臣さん(郷土史家)は、「第2次世界大戦の戦跡(和歌浦地区を中心として)」と題して、終戦期の徹底した文書焼却を逃れた「軍事機密」文書『和歌浦地区隊防禦計画第一大隊』から「和歌浦地区における陣地構築」を示され、①「肉攻(自爆攻撃)」準備遺跡②各種砲陣地遺跡を踏査された時のスライドを説明されました。森崎さんは最後に「昭和19年生まれの私は終戦時は幼児。もし和歌山が沖縄のように本土決戦の捨て石になっていたら、私がどうなっていたか。遺跡は和歌山市や周辺各地にあるので、研究し語り継いでほしい」と結ばれました。(「九条の会・わかやま」381)